

有機Eレデバイス向け化合物

新開発プラントで生産

ライン増設、早期商業化へ

小西化学工業(和歌山市、小西弘矩社長)は新開発プラントで有機Eレ(エレクトロルミネッセンス)デバイスに用いる化合物の生産に入った。大手部材メーカーと初期段階から開発してきたもので、ハイエンドの有機Eレデバイス用次世代偏光板の製造に活用される化合物。これに合わせ今回、2億円をかけた有機ラインを増強した(小西社長)と、早期の商業化に期待する。同社では化合物を含め新開発プラント全体で2025年に20億円の売上高を目指す考えで、コロナ禍からの反転・攻勢に転じていく。

小西化学工業



小西社長

小西化学工業は「将来を思い、有機化学のみならず無機化学も含むケミカルの可能性、新規事業創出を目標し(同)、18年に本社工場内に総工費8億円を投じた新開発プラントを建設した。有機、無機それぞれに専用ラインを設置し、コンタミが発生しない中で有機合成技術による化合物やケイ素系有機無機ハイブリッドポリマーなどの試作お

よむ少量生産を開始。19年には次世代シリコン樹脂のポリシルセスキオキサン(PSQ)の製造も開始している。今回はそれに続くもので、有機Eレデバイスに用いる化合物として有望視している。新たな化合物は大手部



有機専用ラインには反応釜も設置した(上)、新開発プラント

材メーカーの製品開発における「ケミカル回帰」の方針に則って開発された。この方針に共感した同社としても「開発型受託事業として、ラボでの

開発から商業レベルの受託生産まで一貫して協力できる(小西社長)と、今回の生産に邁進した。このほか有機専用ラインを増設、試作・認定生産を経て本格生産に入った。同社では「早期に商業生産に移行し、拠点である福井工場での生産に移せれば(同)と期待する。

同社は22年からは新規中期計画がスタートする。新開発プラントでは同化合物に続く新規製品開発を進め、事業創出の起爆剤としていく。